

## LPガスCP速報(2024年1月積)

### 1. 1月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **620**  $\text{ドル}$  (前月比+10  $\text{ドル}$ )

ブタン **630**  $\text{ドル}$  (前月比+5  $\text{ドル}$ )

#### ① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、中東市場は、冬季需要期を迎えたのにも関わらず、暖冬により、日韓の需要は低迷、中国のPDH、石化需要が散見されるもののタイト感はない。一方、中東産ガス国の定修計画や米国玉がフレート高騰でキャンセルされるなど需給への影響が懸念される。極東CFR市況は、フレート市況の高騰が続き、上旬にプロパン、ブタン670  $\text{ドル}$  どころに達していたが、原油市況の軟化もあり、第4週で650~630  $\text{ドル}$  どころ。CP先物は下旬に反発、期先2月、3月限はバックワーデーションプロパン620~600  $\text{ドル}$  となっている。

米国市場をみると、輸出は引き続き好調、需要は堅調で全米プロパン在庫は減少傾向が続いており、5年平均レンジ内に収まってきた。供給が徐々に絞られ第4週には前月比6割程度まで減少した。パナマ運河の通航船数削減でフレートが急騰し、極東ユーザーは米国産FOB玉のキャンセルも選択肢、暖冬による需要低迷で、需給緩和の観測もある。モンベルビュープロパンスポット価格は、月間平均で前月比25  $\text{ドル}$  反発の358  $\text{ドル/トン}$  どころ(グラフ①参照)。ブタンは、欧州ガソリンブレンド需要低迷により軟化傾向480~465  $\text{ドル}$  で推移。

フレート市況は、予断を許さない状況が続いている。パナマ運河の通航船数の減少により、スエズ、喜望峰経由の船が増加、航海日数が伸び(20日以上)船舶需給のタイト化は必至のなか、イエメン武装組織フシ派の紅海でのタンカー攻撃により、紅海、スエズルートを回避し喜望峰ルートに迂回する船舶が増加、船舶需給の逼迫に拍車がかかった。第4週末で136  $\text{ドル}$  まで再急騰、最終週には紅海ルートの運航再開を発表する大手海運会社も出てきたが、中東地政学リスクにも注視が必要となってきた。

ナフサ市況は反発、月間平均は前月比22  $\text{ドル}$  上昇の666  $\text{ドル}$  どころ。上旬は原油市況の軟化と石化需要の低迷で軟化していたが、中旬以降は原油に連れ高、アジア石化需要回復に期待。

バンカーオイルをみると、原油市況に連れ安、シンガポールIFO380は月間平均で前月比11  $\text{ドル}$  続落の457  $\text{ドル}$  どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同53  $\text{ドル}$  続落の754  $\text{ドル}$  どころ、ガスオイルとC重油との格差は296  $\text{ドル}$  に縮小した。

1月CPは前年同月比プロパン30、ブタン25  $\text{ドル}$  の上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン、ブタンともに8ポイント上昇、前年同月比ではプロパン、ブタンそれぞれ6ポイント高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート(中東-日本)	150	120	120	130	130
CP先物指標:P	610	605	610	620	611
CP先物指標:B	615	620	625	630	622

#### ② 原油市況等

12月の原油市況は軟化した。OPECプラスは90万b/dの追加減産を発表したものの、アンゴラが生産枠に反発しOPECを脱退、協調減産の実効性に疑問符がつけられ、中旬にはWTIが6月以来の69  $\text{ドル}$  割れとなった。一方、ハマス・イスラエル戦争は凄惨なものとなり、イエメンのフシ派が紅海で船舶攻撃を繰り返し、中東紛争拡大の懸念が高まり、原油市況を下支えした形となった。米国の利上げサイクルが終了、来年早期の利下げ観測から株価は最高値に迫る上昇を見せたが、原油先物市場は世界経済減速と供給増加見通しから需給緩和感が出ており、WTI先物は期近6月限まで5限月がコンタンゴになっている。

○12月積みアラビアン・ライト(12月1~29日までの想定)は81.20  $\text{ドル}$  (前月比-6.15  $\text{ドル}$ )

熱量等価AL100% プロパン665.76  $\text{ドル/トン}$  ブタン656.62  $\text{ドル/トン}$

AL比 プロパン93.13% ブタン95.95%

\*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

## 2. 2024年1月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

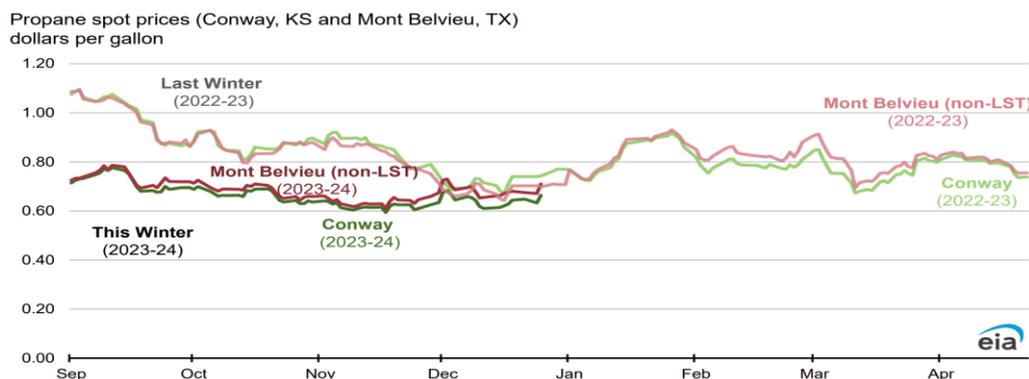
適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
12月月間	145.13	95,000	101,900	-2,400	-3,600

\* TTS平均等について、各社の適用為替レートが昨年4月仕切改定から月間平均に統一された。

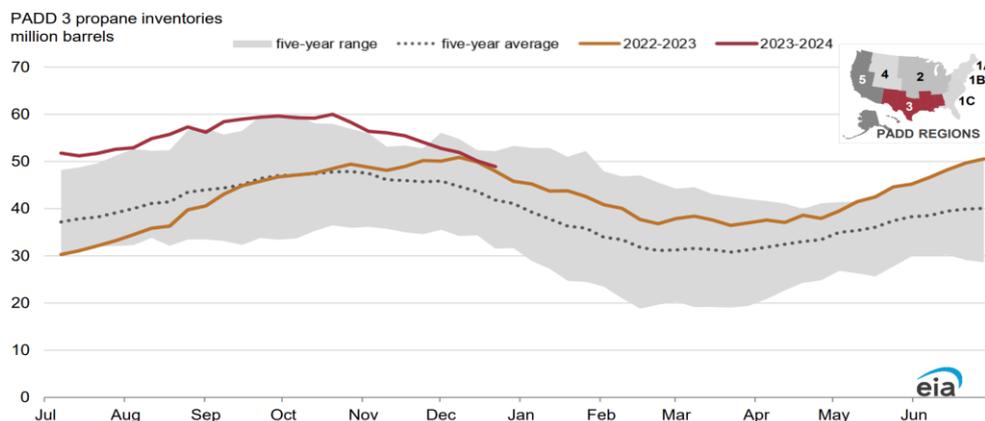
上記は12月1～31日までのTTS平均。CPは前月・当月50%案分。プロパンのMB合成比率はCP70%、MB30%で算定。CFRコストは中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。CFRコストには北米の基地経費等も含まれるが各社で異なる。

なお、上記MBは12月28日までの価格を基にEINで試算（358ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

### ① 米国プロパンスポット価格推移



### ② 米メキシコ湾プロパン在庫推移



### ③ 米プロパン輸出量推移

